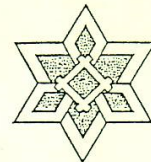


ふくい

舞鶴市立福井小学校
令和5年1月31日発行
(本年度12号)



校訓
共同・進取

如月 節分 逃げる2月

過ごしやすい日が多かった1月でしたが、大寒の頃には最大級の寒波が襲来し、この時季らしい雪景色となりました。休み時間にはたくさん子ども達がグラウンドへ飛び出し雪遊びを楽しんでいました。明日から2月。「二月は逃げる」といいますが、焦らず計画的に学習し、次の学年に向けて準備ができるように、学校生活を充実させたいです。6年生が、卒業までの「日めくりカレンダー」を作っています。みんなで分担し、2月1日(卒業式まで35日)からカウントダウンしていきます。6年生は16人なので、1人で2日ずつ担当すると、3日余ります。ある子に「最後のページ誰が担当?」と聞くと、「最後の3日分はみんなで書きます。」と教えてくれました。日めくりには一枚ずつ担当者のメッセージが書かれおり、卒業式までの日々をみんなでどう過ごすか、それぞれの気持ちが込められているようです。卒業後は、16人それぞれが少し違った目標をもって歩んでいきますが、今の瞬間を同窓生16人みんなの思い出として心に留め、大切にしたいです。



2月3日は「節分」です。節分は立春の前日とされていますが、一年の間には「立春」「立夏」「立秋」「立冬」と季節毎に節目の日があり、それぞれに「節分」があります。その中でも、一年の始まりとされる「立春」の「節分」は年中行事として広く親しまれています。ところが、2021年は立春が2月3日でした。従って節分は2月2日。「えっ? 毎年同じ日じゃないの?」と思って調べてみました。すると、地球と太陽の位置関係で1年間の時間の流れを決めている太陽暦(グレゴリオ暦)では、そんなに単純な話ではありませんでした。そもそも宇宙空間が人間の都合に合わせて動いているはずもなく、人間の方が天体の姿に合わせて時間の単位を考え、その規則を使って生活を便利にしてきました。2021年のように節分が2月3日ではなく2月2日になったのは実に124年ぶりとのことでした。このような事は滅多に起こらないので、節分の日が決まっていると勘違いしてしまいます。ちなみに「春分の日」や「秋分の日」も国民の祝日に関する法律で「春分の日」「秋分の日」とされ、日付の明記はなく、国立天文台が前もって発表することになっています。ではなぜ決まった日にならないのでしょうか。

ご存知の通り、地球は太陽の周りを1年で1周回します。それを私達は太陽と地球の位置をもとに、春夏秋冬の4つに分け、それぞれをさらに6つずつに分けた「二十四節気(大寒や春分、啓蟄、白露、小雪、冬至・・・など24節)」を日々の生活の節目としています。一方、地球の公転は、地球の天の赤道と太陽の黄道が交わる瞬間を立春・立秋として時間を計っており、1日を24時間として考えると、地球が太陽の周りをちょうど1周するには、365日と約6時間(365.2422日)かかるのだそうです。つまり、ピッタリ365日で1周するのではなく、毎年約6時間弱ずつズレている事になるので、それを調整する為に「閏(うるう)年」として4年に1度2月29日を設けています。ところが、このズレは1年間で6時間に少し満たない時間であるため、4年毎に1日を追加すると、逆に補正し過ぎてしまい(45分)、その結果日付をまたいでズレが生じてしまう事が起こるのだそうです。今までは、閏年があっても日付をまたぐズレは生じなかったため、気にする事はありませんでした。ところが、一昨年の「立春」は日付をまたいでズレが生じる年回りとなりました。そこでこのズレを調整するために2021年は2月3日が立春となり、節分が2月2日になったのです。今年は列年のように2月3日が節分ですが、2025年には再び2月2日になり、その後しばらくの間は、4年に1回ずつ2月2日が節分になります。この微妙な時間の調整は、実に100年~400年を単位として行なわれ、その規則も決められているのだそうです。

「節分」と言えば2月が定着しています。よある風習は、「豆まき」をしたり「糰子」を戸口においたりと鬼(病気や事故、災いを例えて)を追い払います。また恵方巻(恵方に向かって事を行うと何事も吉。縁を切らずに丸ごと...)を食べて福を呼び込むこともあります。節分に蕎麦を食べるところもあります。立春を新年と考えれば節分は大晦日。これも「年越し蕎麦」でしょうか。節分を楽しむのは素敵な文化だと思います。子ども達が健康で安全に学校生活を送り、自分らしさをしっかりと発揮して活躍できるよう願いを込めて2月を迎えたいです。保護者・地域の皆様のご協力・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

校長 波多野 暢 教職員一同